

航空宇宙向け金属材料

イノウエ、米向け輸出開始

国際認証取得

ステンレス高合金流通のイノウエ（本社＝東京都千代田区、井上浩樹社長）は、米国の航空・宇宙・防衛分野をターゲットに、ニッケル合金などの金属材料や二次加工品の輸出を開始する。得意とする国内の加工品の輸出に重きを置く考えだ。このほど、国際認証機関のペリジョンソンから、航空宇宙品質マネジメントシステム規格「AS9120B」の認証を取得したほか、米シカゴで金属材料メーカー出身者と顧問契約を結び、輸出入の環境を整えた。

Ni合金や二次加工品

の積層断熱材「スーパ
ーインシュレーション」

ン」の輸入も加速させる。スーパーインシュレーションはMRIや、リニア新幹線、液化水素の輸送などで期待されており、今後は航空宇宙分野での活用も見込まれる。

AS9120Bは、国際航空宇宙品質グループが制定した、航空宇宙産業のサブライチエーンで製品品質を確保するための規格。メーカーが取得しているAS9100と異なり、商社・卸売業を対象とする。認証の取得で、航空宇宙分野へニッケル合金やステンレ

ス、アルミなどを輸出することが可能となる。

イノウエは国内や欧米メーカーの金属材料や加工サブライチエ

ーンを活用した加工品を扱う。航空宇宙向けは

これまで、国内の需要家のみ取引があった。

米国は関税の影響が懸念される一方で「カン

トリリススク回避や、安定品質での供給の観点から日本製への注目は高い」（井上社長）という。

AS9100を取得している鉄鋼メーカーや国内の二次加工メー

カーとともに、金属材料・加工品の販売を始める。「当社の素材から

加工品まで『小回りの利く』点を、日本だけでなく海外でも広げ、

サブライチエーンを駆使した輸出を目指す」（井上社長）とする。

ニッケル合金などの金属材料のほか、オーストリアのビヨンドグラビティ（BYG）社



AS9120を取得したイノウエ。写真は同社の井上社長